

未来を築く子どもたちにIT教育を

Jトラスト銀行 タイムドア・アカデミーと連携

タイムドア・アカデミーの講師からコーディングについて学ぶ子どもたち



日本の金融グループであるJトラスト株式会社(本社・東京都渋谷区)の子会社、Jトラスト銀行は4月27日、バリ州カラングセム県セラヤ・ティムール村でEdTech(エドテック)スタートアップ企業のタイムドア・アカデミーとCSRプログラム「両親のいない子どもを対象としたIT教育トレーニング」を開始した。

本プログラムでは、両親がおらず経済的困難や地域のインフラ不足により教育機会に制約のある7歳から18歳までの子ども15人を対象に情報技術(IT)教育を実践する。子どもたちに対して、デジタル時代に不可欠なITスキルの習得機会を提供し、子どもたちがそのスキルをもって自立できるようになることを目的としている。

CSRの実施パートナーとして、Jトラスト銀行はタイムドア・アカデミーと連携し、以下の3つの取り組みを行う。

- (1) 地元の教師を対象に、IT教師として認定されるまでの技術的および教育的トレーニングである教員養成(TOT)を実施。
- (2) タイムドア・アカデミーは、ラーニングマネジメントシステム(LMS)とデジタル教材を提供。
- (3) 小学校、中学校、高校の各レベルに合わせて、15人の参加者に対して毎週集中的な対面トレーニングを12カ月間実施。

Jトラスト銀行の深代律雄社長は、「日系企業として、未来社会を支えるIT教育の重要性を認識している。本プログラムを通じ、次世代インドネシア人材のITリテラシー向上に貢献していく」と話す。

プログラム開講式および初回のIT教育クラスに出席したタイムドア・アカデミーの徳永裕最高経営責任者(CEO)は「コーディングワークショップでの子どもたちの熱意に大変感銘を受けた。さまざまなコーディング課題に、子どもたちは目を輝かせて取り組んでいました。普段からスマートフォンゲームに親しんでいる経験を活かし、自分たちが作成したキャラクターへの命令方法を驚くほど速く理解していた。当初はデジタルリテラシーの不足から苦勞する場面もみられたが、自分たちが遊んでいるようなゲームをいつか自分の手で作りたいという大きな夢に向かって、これから12カ月間集中的に学ぶ決意を固めていた」と語った。徳永氏は続けて、「このような子どもたちの姿を見て、私たちはすべての子どもが単なる技術のユーザーではなく、クリエイターになる可能性を秘めていると確信した。本プログラムを通じて、技術のユーザーからクリエイターへと成長できる環境を整え、ITを通じて明るい未来を切り拓くお手伝いをしたい」と述べた。

タイムドア・アカデミーの「IT教育で次世代の明るい未来を創造する」という理念とともに、今回の協業がビジネス界と教育機関の持続可能な協力モデルとして、インドネシア全土におけるITリテラシー教育の機会拡大に寄与することを期待される。



教育トレーニングに参加するセラヤ・ティムール村の子どもたちと、Jトラスト銀行、タイムドア・アカデミー代表ら

開講式でプログラムについて説明するタイムドア・アカデミーの徳永CEO



子どもに教材を手渡すJトラスト銀行の深代社長



開講式でスピーチを行うJトラスト銀行の深代社長



 **J TRUST BANK**
Jトラスト銀行

日本語窓口
受付
メール
ホームページ

(021)-2926-1111(内線3755)
平日・午前8時～午後5時
jlink@jtrustbank.co.id
www.jtrustbank.co.id